

史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 新潟市文化財センター 企画展2

# 天王山式土器からみた東日本 の弥生社会 古津八幡山遺跡成立期の動向

- ・ 201115 新潟市文化財センター
- ・ 渡邊朋和





- 参考 古津八幡山 弥生の丘展示館で開催した関連企画展
- ・2015年10～12月 邪馬台国の時代1  
北陸と会津を結んだ古津八幡山-東北南部（会津）の世界-
  - ・2016年1～3月 邪馬台国の時代2  
縄文のある弥生土器-新潟県北部（阿賀北）の世界-
  - ・2016年7～9月 邪馬台国の時代3  
古津八幡山の頃の信濃川右岸の世界
  - ・2017年1～3月 邪馬台国の時代4  
古津八幡山の頃の信濃川左岸の世界-六地山遺跡里帰り展-
  - ・2018年1～3月 邪馬台国の時代5  
柏崎・上越・頸城の世界
  - ・2018年12～4月 邪馬台国の時代6  
鉄-弥生・古墳時代の鉄器-
  - ・2019年11～3月 邪馬台国の時代7  
弥生時代後期の北越と北陸・長野との交流 天王山式土器から考える
  - ・2020年9～12月 邪馬台国の時代8  
天王山式土器からみた東日本の弥生社会 古津八幡山遺跡成立期の動向



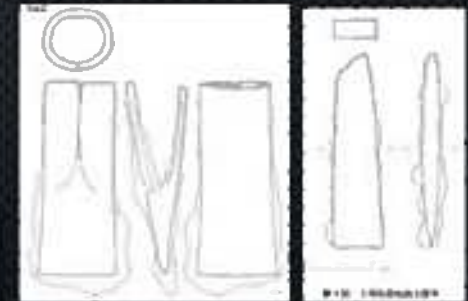
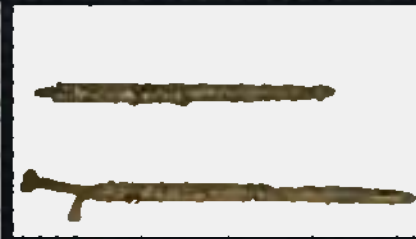
## ◎今日の講演のあらすじ 1

- ① 古津八幡山遺跡では天王山式系列土器はあるが、中期後半の土器（会津系-川原町口式・北陸系-小松式・秋田系-宇津ノ口式など）は1点も出土していない！！
- ② 古津八幡山遺跡では竪穴住居や環濠などの遺構内で後期の北陸系土器と東北系土器（天王山式系列）が共伴している  
⇒古津八幡山遺跡の調査成果から、天王山式系列土器の主体は後期に属すると考えられる
- ③ 白河市天王山遺跡の出現は、後期前半の後半段階（※後期初頭ではない）
- ④ 東日本では広範囲で中期後半（終末）～後期前半（初頭）の遺跡が少ない  
⇒実態がよくわからない 研究をする際の最も大きな問題点
- ⑤ 中期終末の遺跡と後期初頭の遺跡は継続しない場合が多い⇒集落・遺跡の断絶がある
- ⑥ 後期前半（初頭）の天王山式系列土器には、中期後半（終末）の平行沈線文系土器の要素が認められる
- ⑦ 中期後半（終末）にあった地域差は、後期になると解消され、東北一円で「天王山式土器分布圏」に統一されたとする見解もあるが、後期にも明瞭な地域差がある  
⇒「天王山式土器」として一括にすることは適当ではない



## ◎今日の講演のあらすじ 2

- ⑧ 「天王山遺跡天王山式土器」成立以前の後期前半（初頭）に、それぞれの地域で前時期（中期後半）に系譜を辿れない似かよった文様が広域に認められる（S字状連繫文）  
⇒広域に人の往来があったことを窺わせる
- ⑨ 「天王山遺跡天王山式土器」で文様帯が確立する以前には系統・出自の異なる文様が一個体内（一文様帯内）に描かれる  
⇒キメラ現象が顕著にみられる
- ⑩ 北陸では東北北部・北海道南部から直接間接にもたらされたと考えられる土器がみられる  
⇒日本海を介した直接的・間接的な交流がうかがえる
- ⑪ 後期になると利器としての石器は、石鏃などに限られる  
⇒石器の代わりに朝鮮半島で作られた鉄器が主に用いられた  
⇒日本海の物流は朝鮮半島からの鉄器の流通を視野に入れる必要性がある



紀元前後

時期	北陸	長野	古津八幡山遺跡	六地山遺跡	砂山遺跡	会津	中通り	東関東
中期後半	戸水B式	栗林式	—		●	川原町口式 御山村下式		
			—	△	●	油田Y		
後期前半 1	猫橋式	吉田式		六地山	●	和泉遺跡		東中根
後期前半 2	猫橋式	吉田式	外環濠C	六地山	●	能登遺跡		東中根
後期前半 3	猫橋式	吉田式	方形周溝墓 1	○	●		天王山式古 天王山式新	東中根
後期後半 1	法仏式	箱清水式	方形周溝墓 2				明戸遺跡	十王台
後期後半 2	法仏式	箱清水式	●					
後期終末 1			●					
後期終末 2			●					



# 0 プロローグ 1



11 船が描かれた板  
持狭遺跡（兵庫県豊岡市）兵庫縣立考古博物館蔵  
兵庫縣指定文化財 弥生時代後期から古墳時代前期  
長さ 197.3cm  
スギ製 15隻の船が描かれている。

『弥生人の船』大阪府立弥生文化博物館2013  
豎板型準構造船

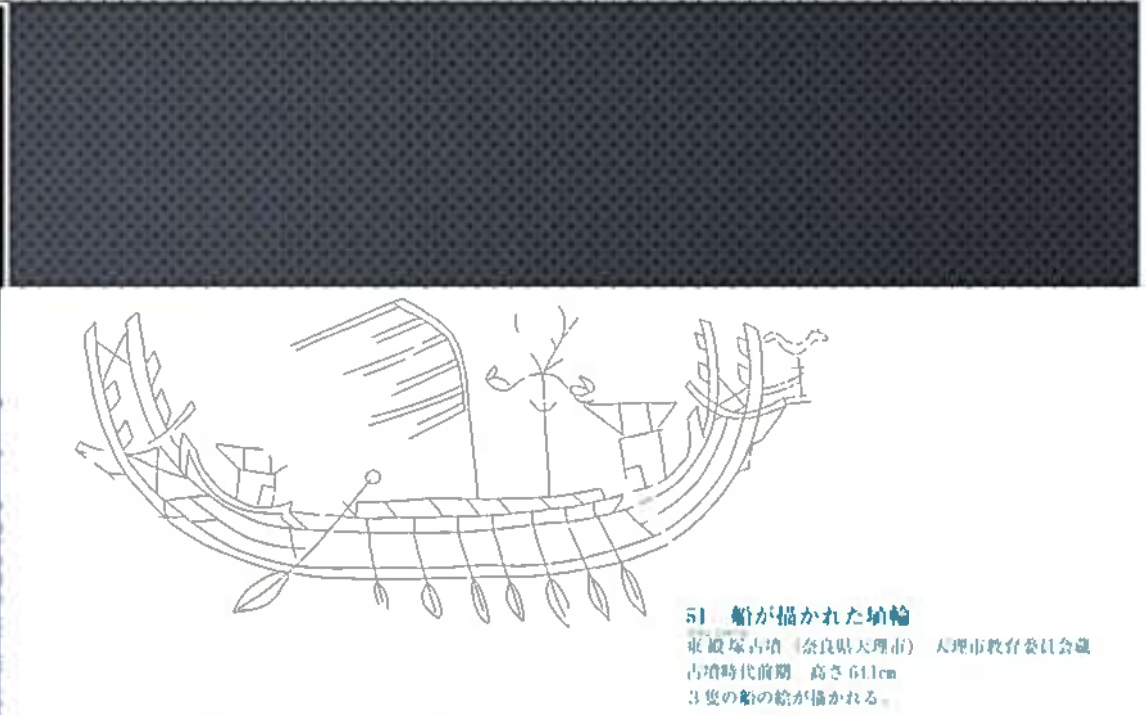
準構造船が描かれた壺-日本海を船団が行き交っていた  
豎板型1艘 權8-16人乗り？  
貫型2艘？ 新潟市江南区道正遺跡（古墳時代前期）



貫型準構造船

49 船の楫輪

上野の早遺跡（大阪府藤井寺市）大阪府立近つ飛鳥博物館蔵 古墳時代中期 長さ104.8cm



51 船が描かれた埴輪

東殿塚古墳（奈良県大里市）大里市教育委員会蔵  
古墳時代前期 高さ61.1cm  
3隻の船の絵が描かれる。



『弥生人の船』大阪府立弥生文化博物館2013



## 0 プロローグ 2 天王山式土器を研究する目的 きっかけ

### 0\_1 国指定史跡 古津八幡山遺跡の消長を明らかにする

時期・年代設定の基準になる土器編年が流動的（前後の時期が逆転する場合もありうる！！）  
⇒時間軸が変わってしまうと、ストーリーが根本から崩れてしまう

### 0\_2 越後平野の弥生時代における多（他）系統の土器群の共伴状況

- ・古津八幡山遺跡 3系統以上の土器群が共存 北陸系・東北系・折衷系
- ・六地山遺跡 多系統の土器群が共存（新潟市石動遺跡・松影A遺跡なども）
- ・弥生土器の研究目的が、土器編年（地域ごとの変遷の尺度）の確立のためだけでなく、  
時期ごとの土器の系統・系譜なども明らかにできる 天の動きを明らかにする

### 0\_3 北陸 富山県・石川県への資料調査

弥生の丘展示館の企画展の事前調査のために、2019年5月に富山県・石川県の資料調査に行った際に、  
「えっ！！新潟ではあまり見たことない変な土器だな？天王山式土器分布の外殻圏だから文様帯が  
変容しているのか？」と最初は思ったのだが、実は、そうではないことが後にわかった

### 0\_4 六地山遺跡の再整理

### 0\_5 恩師である磯崎正彦先生の業績

「天王山式土器の編年的位置に就いて」『上代文化』第26輯（國學院大學考古学会）1956.4



# 1 研究方法 1

## 1\_1\_研究対象時期

- ・ 弥生時代中期中頃～後期終末、古墳時代初頭  
天王山式土器前後の時期が研究対象

## 1\_2\_研究対象の特徴と制約

- ・ 研究対象とする時期は、遺跡そのものが少なく、完形土器も少ない
- ・ 破片資料までを研究対象としている（形になる土器だけを見ていてもわからない）
- ・ 前の時期（中期後半）との継続性が少ない?? 看過されて来た
- ・ 中期後半の地域性が解消され、所謂天王山式土器に画一化されたと考える研究者もいる

## 1\_3\_研究対象とする地域と、現在把握している遺跡数

北海道62、青森88、岩手147、宮城65、秋田38、山形52、福島213、茨城90、栃木、千葉  
群馬、新潟213、富山36、石川40、福井 約1000遺跡を集成し、現在進行中・・・

## 1 研究方法 2

### 1.4 遺跡・遺物の集成作業

- ・ 報告書・論文など文献を見て、対象遺物が掲載されているかを調べる
  - ・ 都道府県単位の遺跡管理番号を付けて、遺跡位置をグーグルアースプロに入れる (KMZ)
    - 地理感のない他県では極めて有効 県単位・県内のエリア単位で把握する
  - ・ 土器図版をコピー・スキャンして、集成図を作成
- ⇒ 集成作業を行うことによって、地域を越えて類似する属性の把握が可能
- ・ 土器の時期・特徴・系統を入れた集成表を作成 縄文原体 (R・L) の記録は必要不可欠
  - ・ 資料調査に行き、写真撮影を行い、可能な限り実測図を作成する . . . 単なる収集癖?  
富山県・石川県・新潟県は9割以上調査済み、岩手県は8割程度、福島県 . . .

### 1.5 型式学的研究、分布論的研究

- ・ 型式学 器形や文様の変化・変遷を追う 型式・系統毎の集成 . . .
- ・ 分布論



## 2 天王山遺跡 天王山式土器

### 2\_1\_天王山遺跡（福島県白河市）

阿武隈川の北側にある独立丘陵上（豆柄山）、比高80<sub>cm</sub>

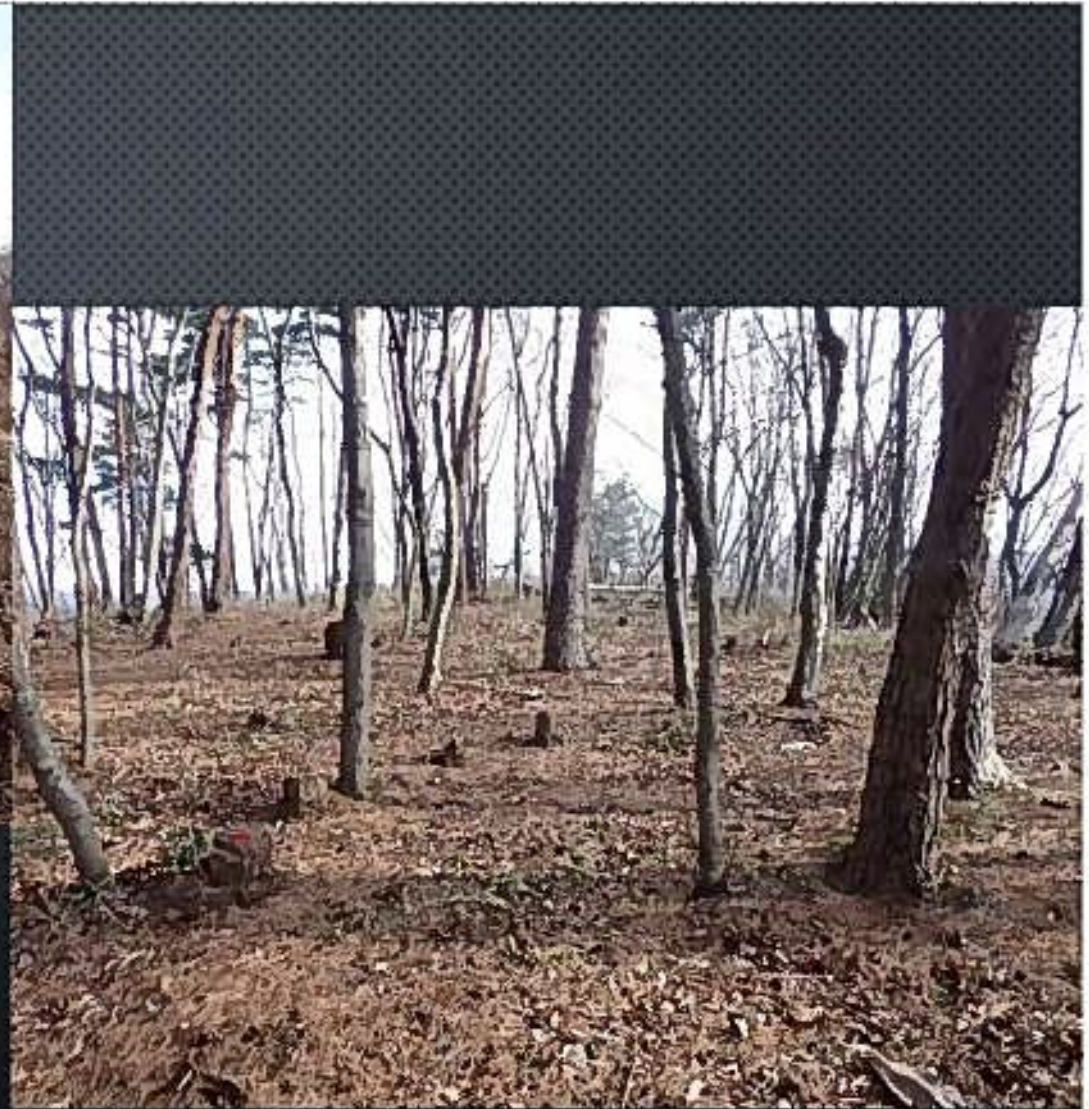
古代の官道に近接し、白河関と白河郡衙（関和久遺跡）の中間に位置する

### 2\_2\_天王山式土器の8つの特徴（山内清男・中村五郎・馬目順一・佐藤信行・石川日出志等）

- ①交互の刺突（文）-交互刺突文
- ②口縁の突起の発達：北方系
- ③受口状口縁の多用：東北南部系
- ④頸部の一部の横帯状の素文化：東北南部系？
- ⑤体部文様帯の磨消縄文の発達：東北南部系？
- ⑥体部文様帯下端の下向き弧線文（しばしば連弧文となる）：北方系
- ⑦条の縦走する縄文：RL 北方系
- ⑧条の横走する縄文：LR

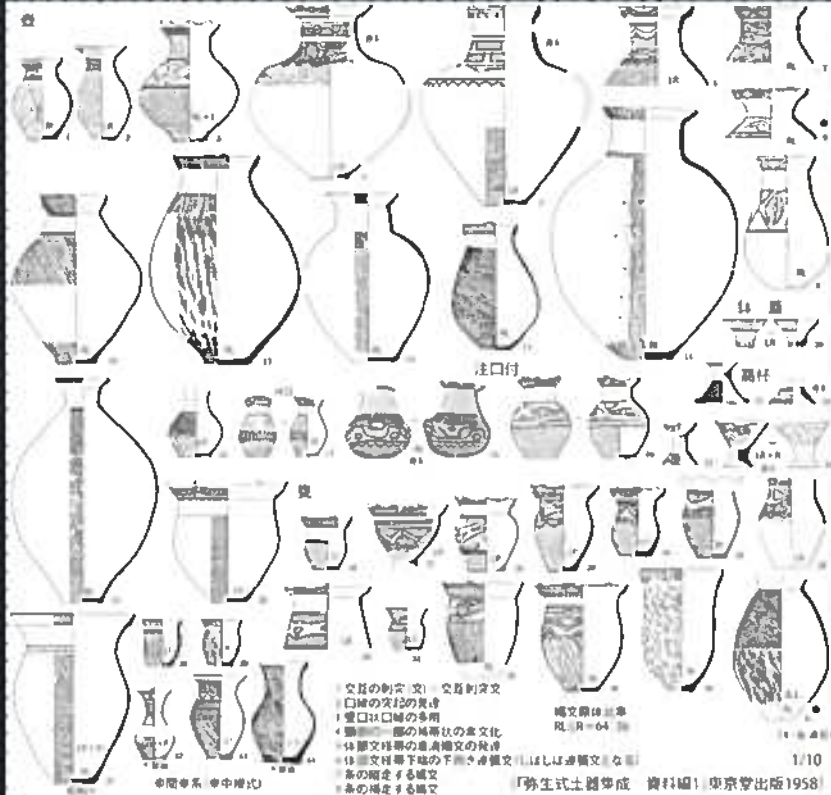






福島県白河市天王山遺跡





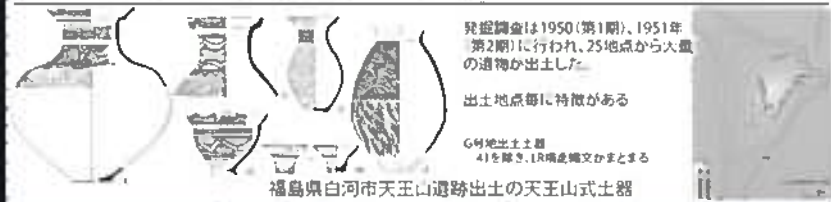
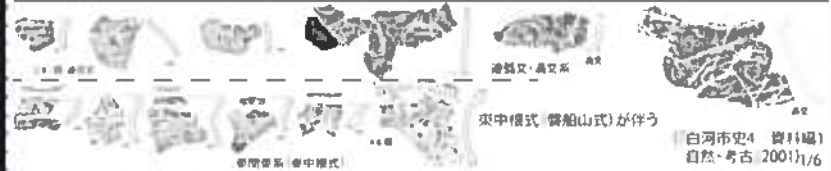
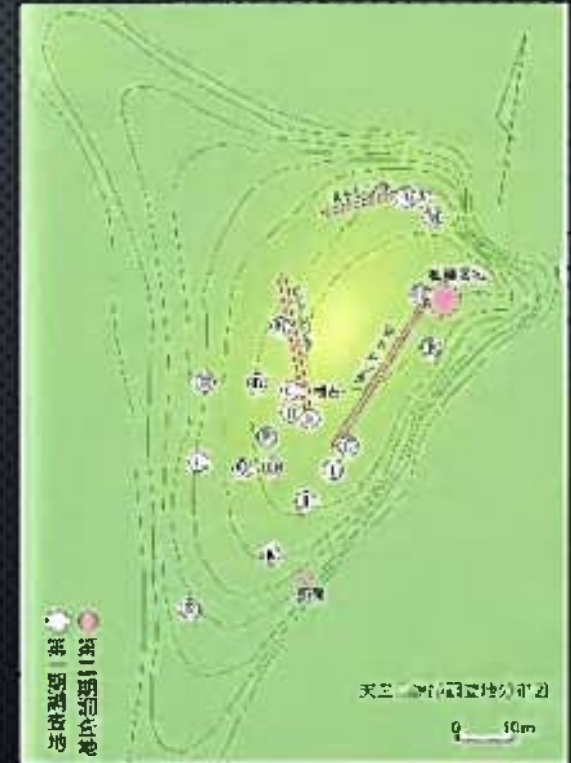
- ① 交互の刺突(文) - 交互刺突文
- ② 口縁の突起の発達
- ③ 受口状口縁の多用
- ④ 頸部の一部の横帯状の素文化
- ⑤ 体部文様帯の磨消縄文の発達
- ⑥ 体部文様帯下端の下向き弧線文(しばしば連弧文となる)
- ⑦ 条の縦走する縄文 RL
- ⑧ 条の横走する縄文 LR



環状石器



アメリカ式石鏃

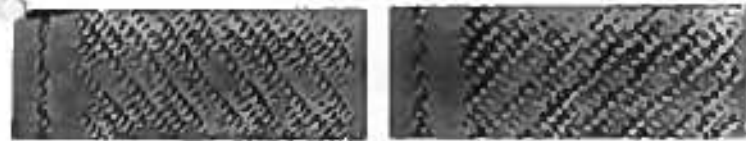


1A



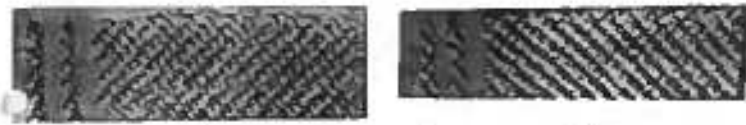
1 1-1

2 1-2



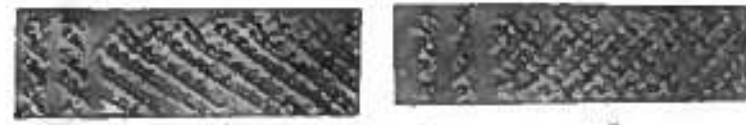
3 1-3

4 1-4



5 1-5

6 1-6



7 1-7

8 1-8

35



2



1



4



3

37

山内清男  
『日本先史土器の縄紋』  
(先史考古学会) 1979





福島県白河市天王山遺跡





古相の土器  
平行沈線で連弧文・渦文を描く



東関東系土器

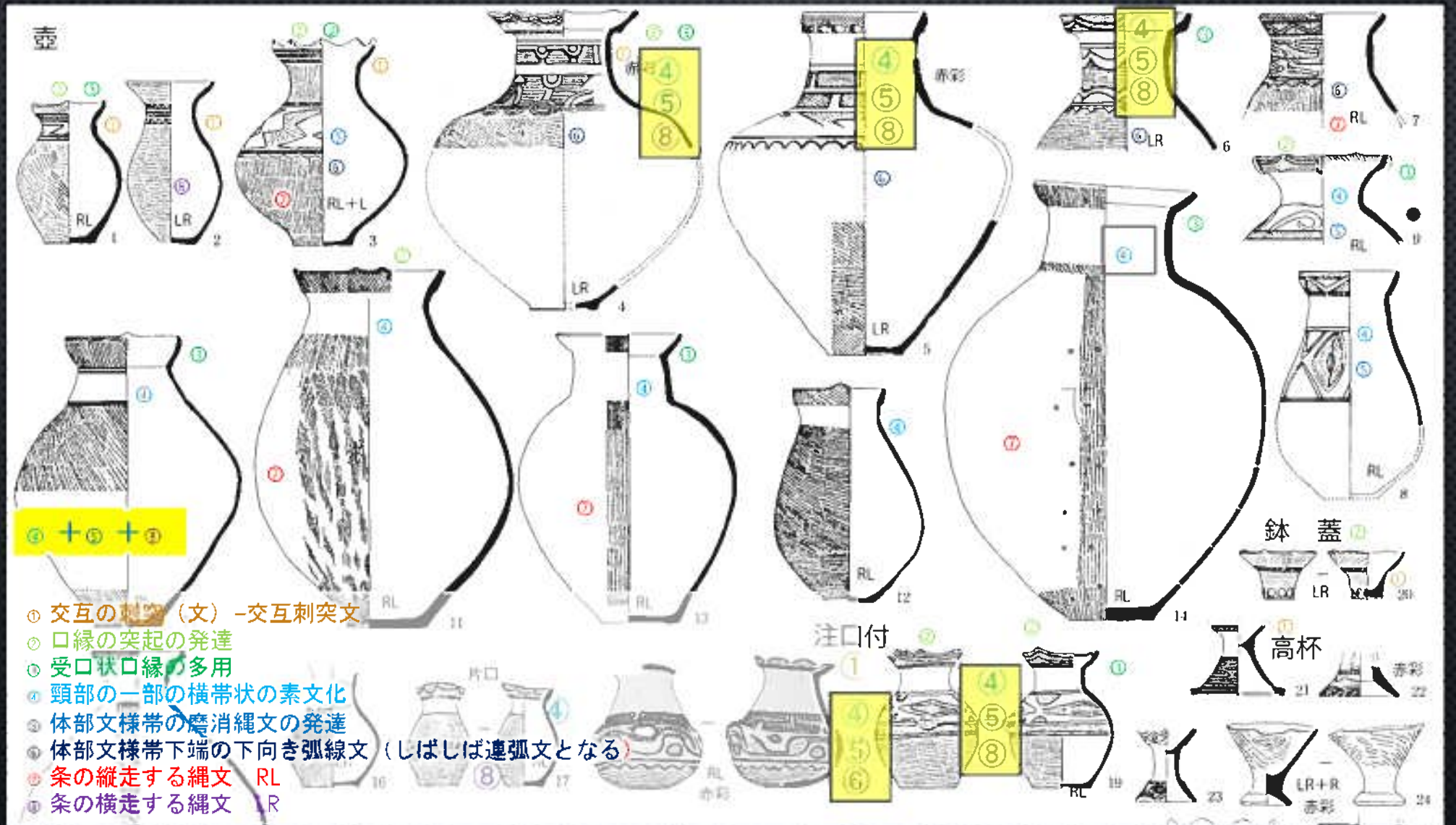


福島県白河市天王山遺跡

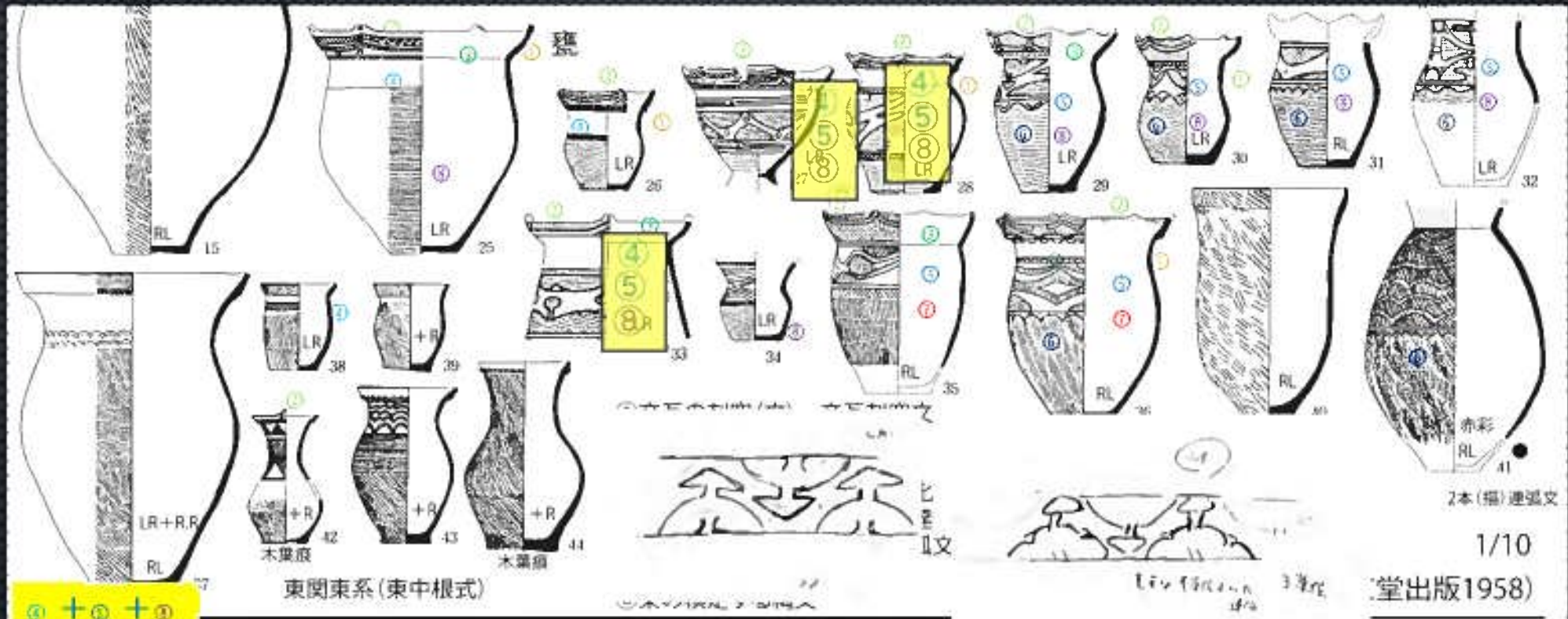


・東関東では平行沈線文系  
(2本描施文具)が新しくなると  
多条化していく  
・縄文原体は附加条第1種 (+R)  
⇒ 伴する東関東系土器は  
後期初頭ではない！！









④ + ③ + ②

明確に文様帯が区分されている

連弧文に由来する文様が多い

一つの文様帯に、出自系統が異なる文様を入れることはない

- ① 交互の刺突 (文)
- ② 口縁の突起の発
- ③ 受口状口縁の多
- ④ 頸部の一部の横
- ⑤ 体部文様帯の磨消縄文の発達
- ⑥ 体部文様帯下端の下向き弧線文 (しばしば連弧文となる)
- ⑦ 条の縦走る縄文 RL
- ⑧ 条の横走る縄文 LR

東関東系 (東中根式)

東中根式 (磐船山式) が伴う

(『白河市史4 資料編1  
自然・考古』2001)1/6





### 3 古津八幡山遺跡

#### 3\_1\_遺跡の概要

- ・遺跡の時期は、弥生時代後期～後期末末、古墳時代
- ・日本海・信濃川・阿賀野川が近接する交通の要衝
- ・平野部との比高約50mの丘陵上に環濠に囲まれた集落が広がる
- ・50棟以上の竪穴住居が検出されている
- ・遺構内で北陸系・東北系・在地系土器が共伴し、土器編年（他地域との併行関係）を構築する際の基準資料となっている
- ・集落廃絶後に、最高所に前方後方形周溝墓（墳墓）
- ・その後、新潟県内最大の直径60mの円墳が築かれる
- ・2005年に12ヶ所が国指定史跡となる



### 弥生時代後期の社会

古津八幡山遺跡では東北系・北陸系、両地方の特徴を併せ持った地元系の土器があります。それ以前の弥生時代前期・中期も新潟県内では同じような状況でした。日本海・信濃川・阿賀野川を利用して各地域の文化が伝わりました。これらの土器は、竪穴住居から一緒に見つかるので、ともに使われていたことがわかります。外来系は、古津八幡山へやって来た人々がつくったか、それらを真似て、つくられた土器です。

### 古津八幡山遺跡出土土器の系統別イメージ



古津八幡山遺跡 八幡山式土器



天王山遺跡(白河市)

白河市教育委員会 提供



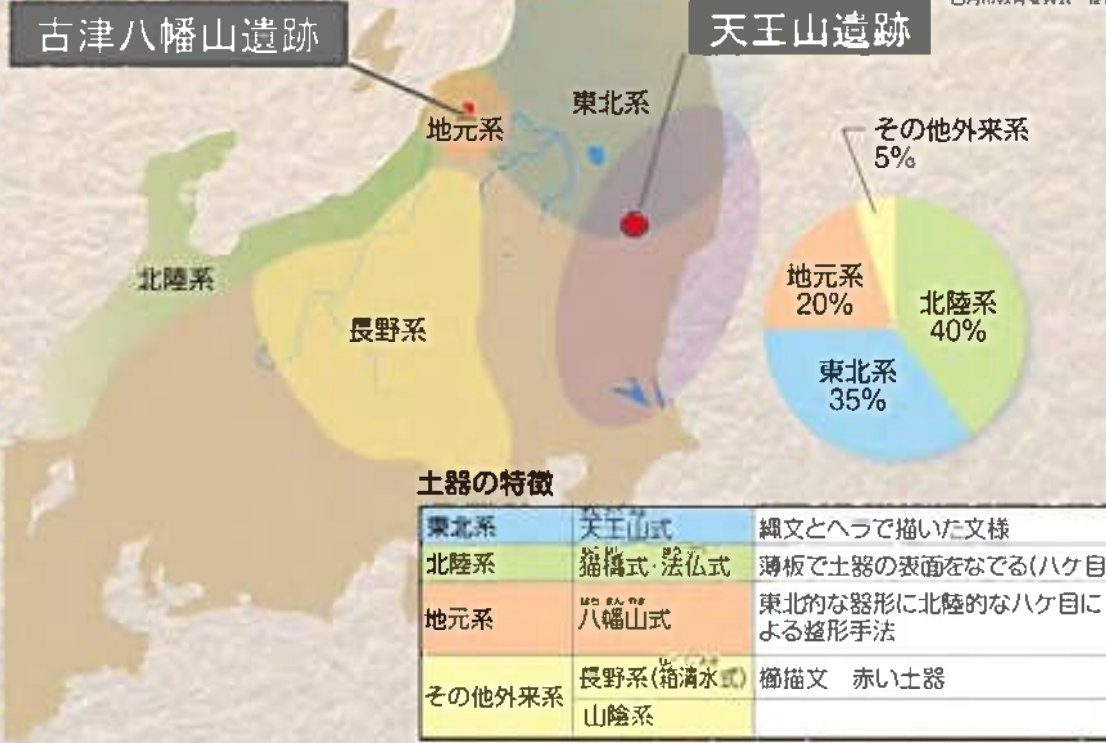
吹上遺跡(上越市)

上越市教育委員会 提供



篠ノ井遺跡群(長野市)

財団法人長野県埋蔵文化財センター 提供



古津八幡山遺跡・天王山遺跡ともに、東北系土器(天王山式)の外郭に、-分布域外れ-に位置する点が重要









・ 中心規模  
南北400m  
東西150～200m







### 3 古津八幡山遺跡

#### 3.2 遺構の重複関係と遺物の型式学的研究

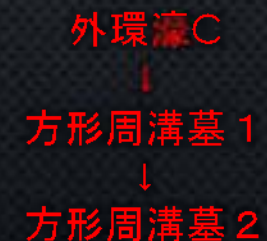
※ 後期北陸系土器と天王山式系列土器が遺構内で共伴する

共伴しない場合も、遺構の重複関係（新旧関係）で遺物の新旧が確認できる

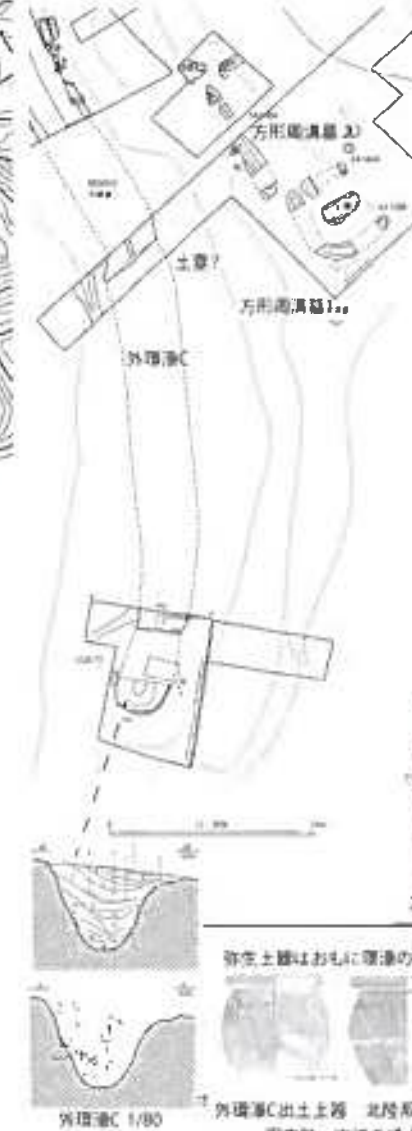
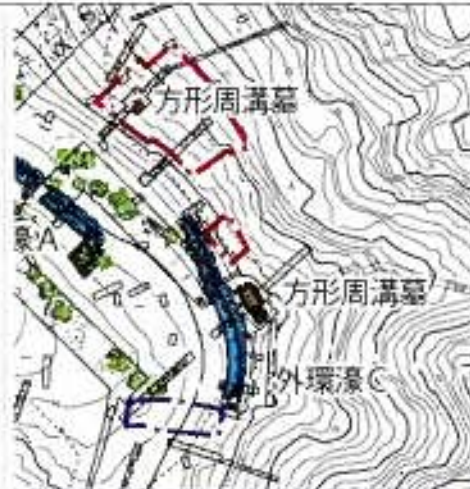
- ①外環濠C中層 後期前の後半段階 北陸系（猫橋式新段階） 環濠の掘削時期は更に遡る？
- ②方形周溝墓1（SX1005） 後期前半の後半段階 東北系（天王山式系列土器）
- ③方形周溝墓2（SX1004） 後期後半の前半段階 北陸系・折衷系（法仏式・八幡山式）

方形周溝墓1と溝を共有し、その後に構築

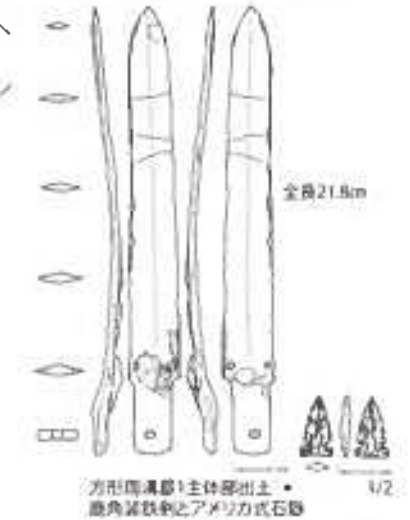
方形周溝墓の周溝覆土に外環濠C掘削土（土壘？）が堆積しており、環濠よりも新しいことが明確







- 遺構の新旧関係と土器型式
- ・外環濠C 縄橋式新段階
  - ・方形周溝墓1 天王山式系列
  - ・方形周溝墓2 法山式古段階



外環濠C 1/80

外環濠C出土土器 北陸系(縄橋式新段階) 1/6

国史館 古津八幡山遺跡 外環濠と方形周溝墓





### 古津八幡山遺跡

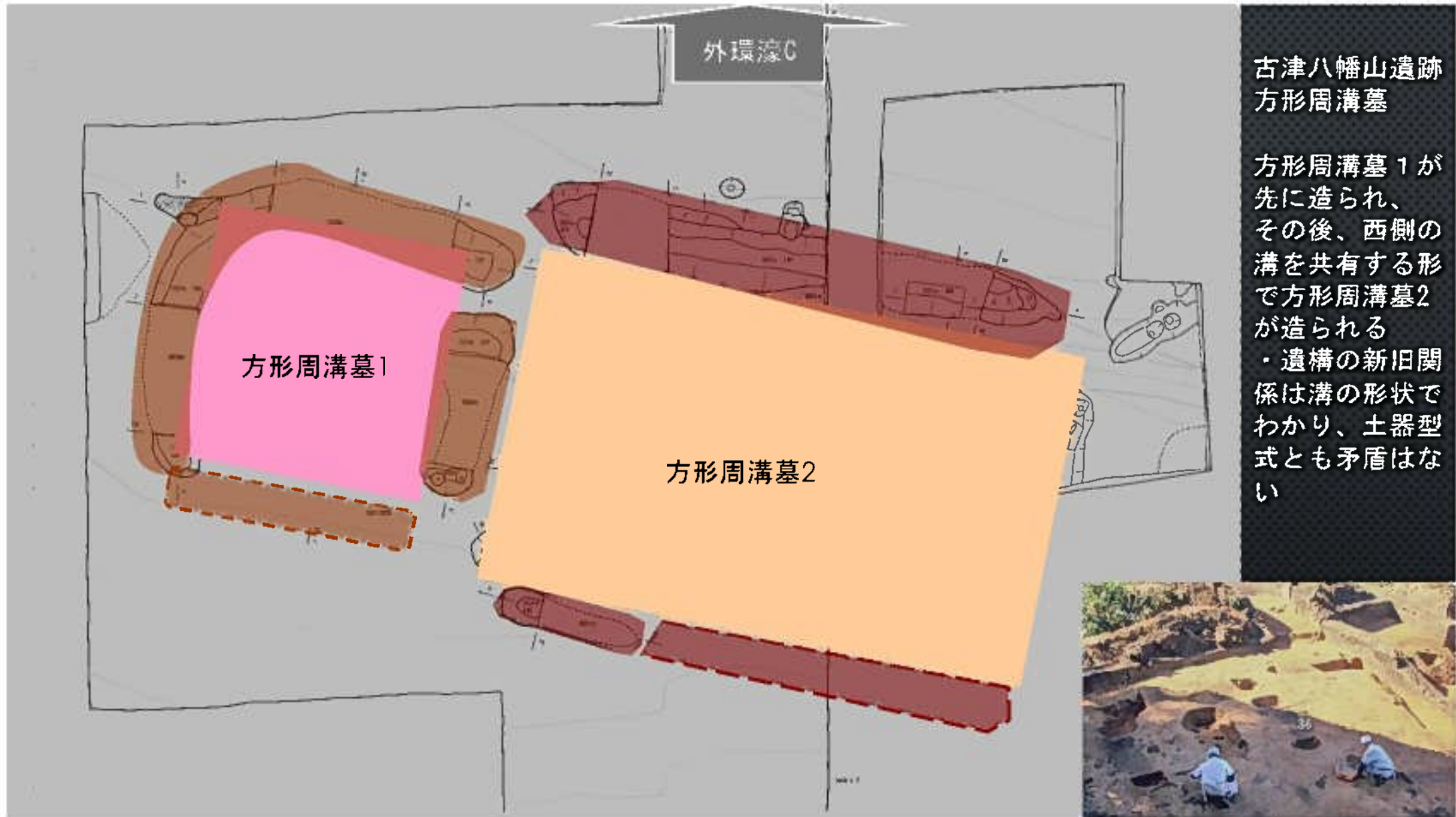
外環濠C出土 北陸系土器（後期前半 猫橋式）  
後期後半の法仏式の甕に比べると、口縁部の伸びが少ない

古津八幡山遺跡では、まず最初（後期前半）に  
北陸系集団によって  
外環濠が掘られ、  
高地性集落が築かれた

日本海沿岸にある六地山遺跡に後続する頃



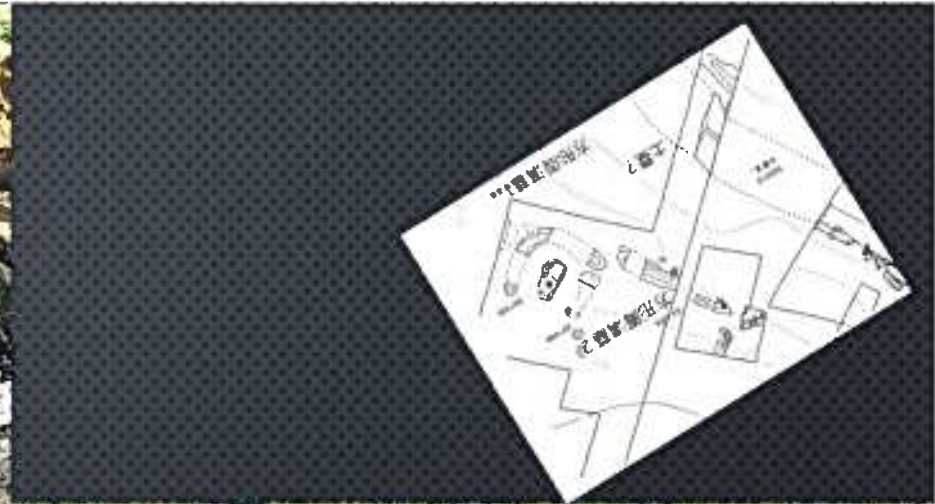








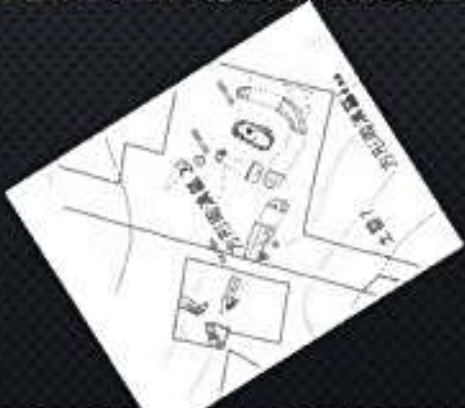
方形周溝墓1・方形周溝墓2



外環溝C

方形周溝墓2

方形周溝墓1



古津八幡山遺跡





方形周溝墓 1  
2.8×3.1m

方形周溝墓の交差現象  
墓制 組合せ式木棺 武器（鉄剣）の副葬 西日本的  
天王山式系列土器 アメリカ式石鏃 東日本的

※ 古津八幡山遺跡の複雑な社会状況を示す典型的な遺構

古津八幡山遺跡



アメリカ式石鏃



鹿角装鉄剣







出現期の八幡山式



結節縄文が転化した竈圍文

古津八幡山遺跡 方形周溝墓1出土 東北系土器（後期前半の後半段階）





古津八幡山遺跡 方形周溝墓1出土 鹿角装鉄剣・石鏃





方形周溝墓1

方形周溝墓2

周溝に堆積した環濠の掘削土

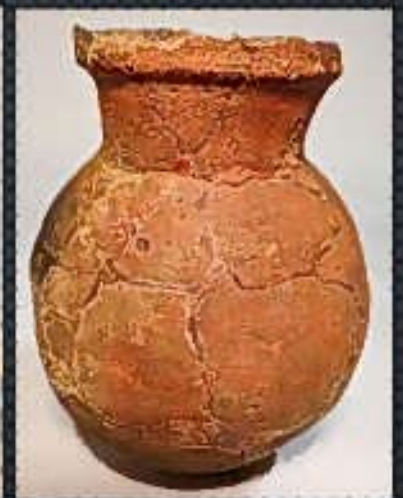


古津八幡山遺跡

方形周溝墓2

弥生土器出土状況



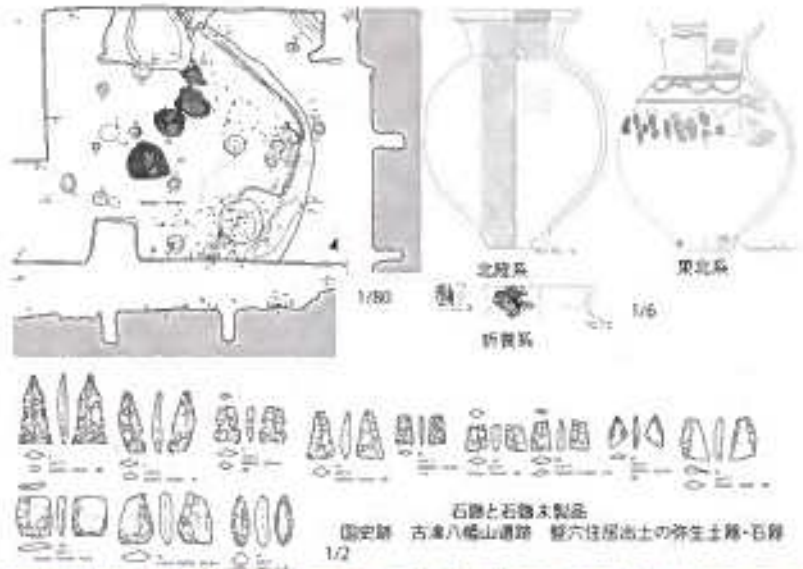


後期後半（法仏式古段階）  
甕の口縁部が伸長している

八幡山式土器

古津八幡山遺跡 方形周溝墓2出土 北陸系・折衷系土器（後期後半の前半段階）

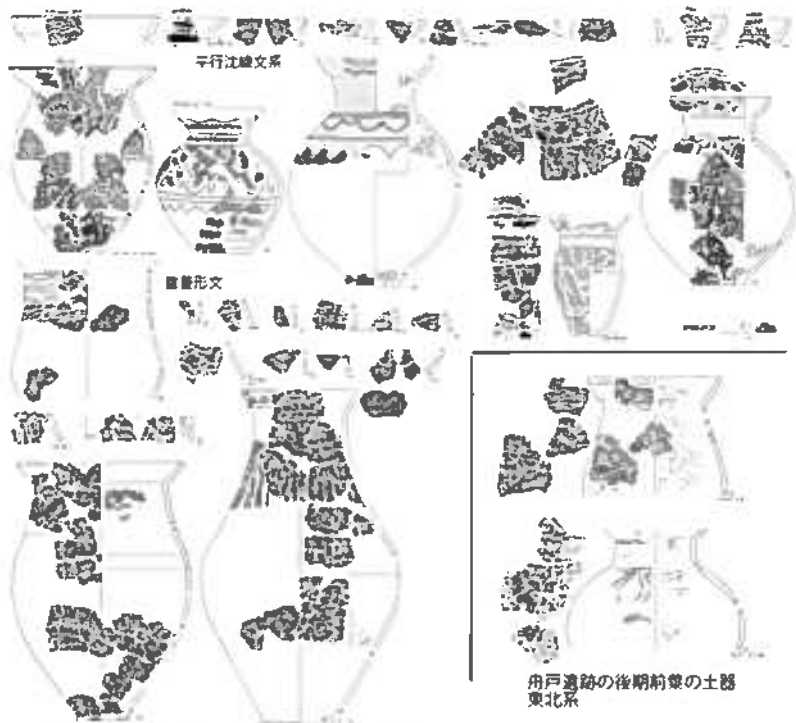




口縁部 2条沈線で下向連弧文  
 頸部上半 無文  
 頸部下半 2条沈線で上向連弧文  
 上胴部 下向連弧文

古津八幡山遺跡  
 竪穴住居で伴出する北陸系・東北系土器





国史跡 古津八幡山遺跡の後期前半の土器 東北系



国史跡 古津八幡山遺跡 折衷系(八幡山式)



### 古津八幡山遺跡の後期前半の土器

古津八幡山遺跡では中期後半 終末の資料は1点も出土していない  
天王山式系列土器が中期に併行することは考えられない





舟戸遺跡の後期前葉の土器  
東北系

古津八幡山遺跡の  
麓にある遺跡

舟戸遺跡の後期前半  
の土器



## 4 弥生時代中期後半から後期初頭の土器について



### ● 中期後半の東北系土器

● 会津系（川原町口式）  
平行沈線（2本描沈線）で  
渦文・重山形文・重菱形文などの  
文様を描く

● 秋田系（宇津ノ台式）及び  
折衷型式  
へら描沈線又は  
平行沈線（3本描沈線）で  
直線文・波状文・菱形文などの  
文様を描く

新潟県 阿賀北  
新発田市山草荷遺跡出土の各系  
統の土器群（中期後半）





長野系（栗林式）



北陸系（小松式）



秋田系（宇津ノ台式）



東北南部系（川原町口式）

新潟県 阿賀北  
新発田市山草荷遺跡の弥生時代中期後半の土器



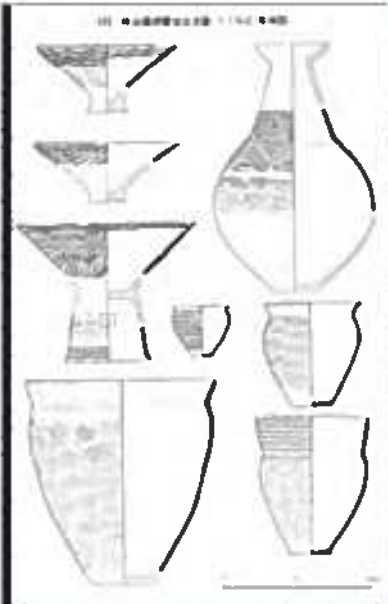


秋田系（宇津ノ台式）土器群と  
折衷土器 3本描施文具



新潟県 阿賀北  
新発田市山草荷遺跡の秋田系土器

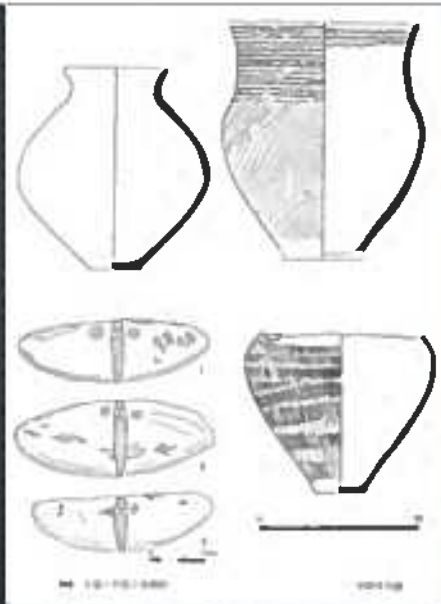




宮城県



福島県



山形県



岩手県奥州市

東北地方における弥生時代中期後半の  
平行沈線文系土器

中期後半

岩手県南部～東関東、山形・新潟の一部にかけて  
平行沈線文系土器が分布する

⇒ 平行沈線文系土器の要素を残す後期の土器は  
古い（後期初頭）様相と考えられる



茨城県における  
弥生時代中期後半～後期前半の土器





## 後期初頭から前半の出現期の「交互」刺突文



兎Ⅱ遺跡



下ノ内浦遺跡



上段・中段 岩手・宮城県  
下段 新潟県 砂山遺跡  
※中段中央は平行沈線文で  
文様を描いている

下ノ内浦遺跡



砂山遺跡

能登遺跡例は岩手県・宮城県の例に類似する。厳密に言うと、「交互」刺突文にはなっていない。  
横位の沈線を引いて、縦に棒状の工具でキザミを入れている。(仮称 兎Ⅱタイプ交互刺突文)  
砂山遺跡例のような三角形の刺突は太平洋側では稀。下段右以外は、「交互」刺突文にはなっていない例。



交互刺突文

天王山遺跡



## 岩手県南部地域における中期末・後期初頭の弥生土器 1



上段・中段：天王山式系土器（※中段右から2番めは交互刺突文と平行沈線による連弧文が併用される例）  
下段：平行沈線文系土器（中期後半の要素を残す一群）

・兎Ⅱタイプの「交互」刺突文  
口縁肥厚部に横位の沈線を引き、縦  
のスリットを入れる  
・兎Ⅱ遺跡ではその上に縦のキザミを  
入れるのが特徴

・縄文原体はLR

・平行沈線で山形文や連弧文を描く  
平行沈線文系土器が出土

・平行沈線で文様を描き、交互刺突文  
を入れるものもある

cf細田遺跡

岩手県奥州市兎Ⅱ遺跡の天王山式土器と平行沈線文系土器



## 岩手県南部地域における中期末・後期初頭の弥生土器 2



- ・ 兎Ⅱタイプの「交互」刺突文  
口縁肥厚部に横位の沈線を引き、縦  
のスリットを入れ、さらにその上に縦  
入れる

- ・ 縄文原体はLRが主

- ・ 平行沈線で山形文や連弧文を描く  
平行沈線文系土器が出土

- ・ 結節縄文が多用される

上段：天王山式系土器（左から1番め・2番めは兎Ⅱタイプ交互刺突文を入れる例。3番めは平行沈線で連弧文を入れる）

中段：平行沈線文系土器（左から1番目の太い原体のLR縄文は天王山式系の影響によるもの）

下段：結節縄文LRを入れた粗製土器。口縁有段肥厚部が押圧により下向き連弧状となる

岩手県奥州市石田Ⅰ・Ⅱ遺跡の天王山式土器と平行沈線文系土器



## 岩手県南部地域における中期末・後期初頭の弥生土器 3



岩手県南部（北上市・奥州市周辺）周辺では、中期後半に多用される平行沈線文系の施文具で文様を描く天王山式系土器が見られる。  
これらの天王山式系土器に描かれる交互刺突文は兎Ⅱタイプの交互刺突文が大半であり、兎Ⅱタイプの交互刺突文が中期後半に接点を持っていることを示している。  
⇒兎Ⅱタイプの交互刺突文に類似する能登遺跡なども同様。

上段：左端 天王山式系土器（兎Ⅱタイプ交互刺突文を入れる例）他 内湾口縁に平行沈線で連弧文を入れる折衷土器  
中段：平行沈線文系土器（上段右3例と同一個体の可能性が高い。LR地文に波状文や連弧文を入れる。）  
下段：平行沈線文系土器（RL地文に同心円文・渦文や山形文を入れる例）

・兎Ⅱタイプの「交互」刺突文  
口縁肥厚部に横位の沈線を引き、縦のスリットを入れ、さらにその上に縦のキザミを入れる  
・縄文原体はLRが主

・平行沈線で山形文や連弧文を描く  
平行沈線文系土器が出土  
・結節縄文が波状沈線に転化したものもある

岩手県奥州市北田Ⅱ遺跡の天王山式土器と平行沈線文系土器



## 会津地域における中期末・後期初頭の弥生土器 1



・ 中期末からの伝統である平行沈線-2本描施文具で-主に上向き連弧文を描く

・ 口縁部や口縁部下端には、横位沈線+縦スリットの「交互」刺突文を入れている（仮称兎Ⅱタイプ）

・ 縄文原体は、中期後半にはない  
1段Lがあり、1段Rと拮抗する

・ 横糸文・無節縄文が多いのも特徴  
会津盆地の前時期からの系譜だけでは辿ることができない土器群  
※ 中期後半の渦文・同心円文ではない



## 会津地域における後期初頭の弥生土器 2



・天王山式土器には稀な、頸部で括れ口縁部が肥厚しない甕形の器形

・平行沈線-2本描施文具-で連弧文  
・平行沈線-2本描施文具-で鋸歯文  
・「交互」刺突文は兔Ⅱタイプが多い

・能登遺跡には、先端が二又になった施文具で連弧文を描くものが一定量見られ、平行沈線の名残かと思われる

・結節縄文を波状沈線に転化したものもある

会津では中期末の2本描施文具（平行沈線文）は、渦文・同心円文が主体なので、中期末の系譜だけでは捉えきれないが、古い様相を持った土器群であると言える

これらの一群と出土した土器を天王山遺跡天王山式よりも古いものと位置づけている



## 5 弥生土器からみた北陸と北海道南部・東北北部との交流

### 5\_1 北陸-富山・石川県-における天王山式土器系列土器群-

- ・出土遺跡数 富山県36、石川県40遺跡、
- ・重菱形文系列 富山県15、石川県13遺跡

### 5\_2 北陸における天王山式土器系列土器群の特徴と系譜

#### ・重菱形文系列が多い

- ・口頸部間小連弧文 . . . . .
- ・縦位鋸歯文 . . . . . 東北北部

- ・**頸部に重菱形文を入れる土器の上胴部に様々な構図が入られる**
- ・S字状連繫文 . . . . . 三陸・上北三八~各地
- ・上胴部 山形文+弧線文(波状文) . . . 北海道南部~
- ・円台形連結文 . . . . . 東北北部~

- 重菱形文とのキメラ土器としてあらゆる構図が北陸で見られる
- 東北北部・北海道南部にみられる特徴が多い

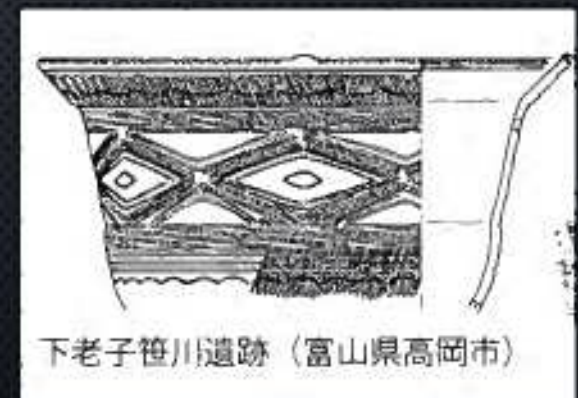
※ 下老子笹川遺跡 北海道系土器(続縄文式土器 恵山式)の模倣品

→ 天王山遺跡天王山式土器にはみられない特徴

→ 北陸では明確な平行沈線文系土器の系譜は確認することはできない 北陸の中期には無い土器なので当然



大石平遺跡



下老子笹川遺跡(富山県高岡市)





富山県



石川県



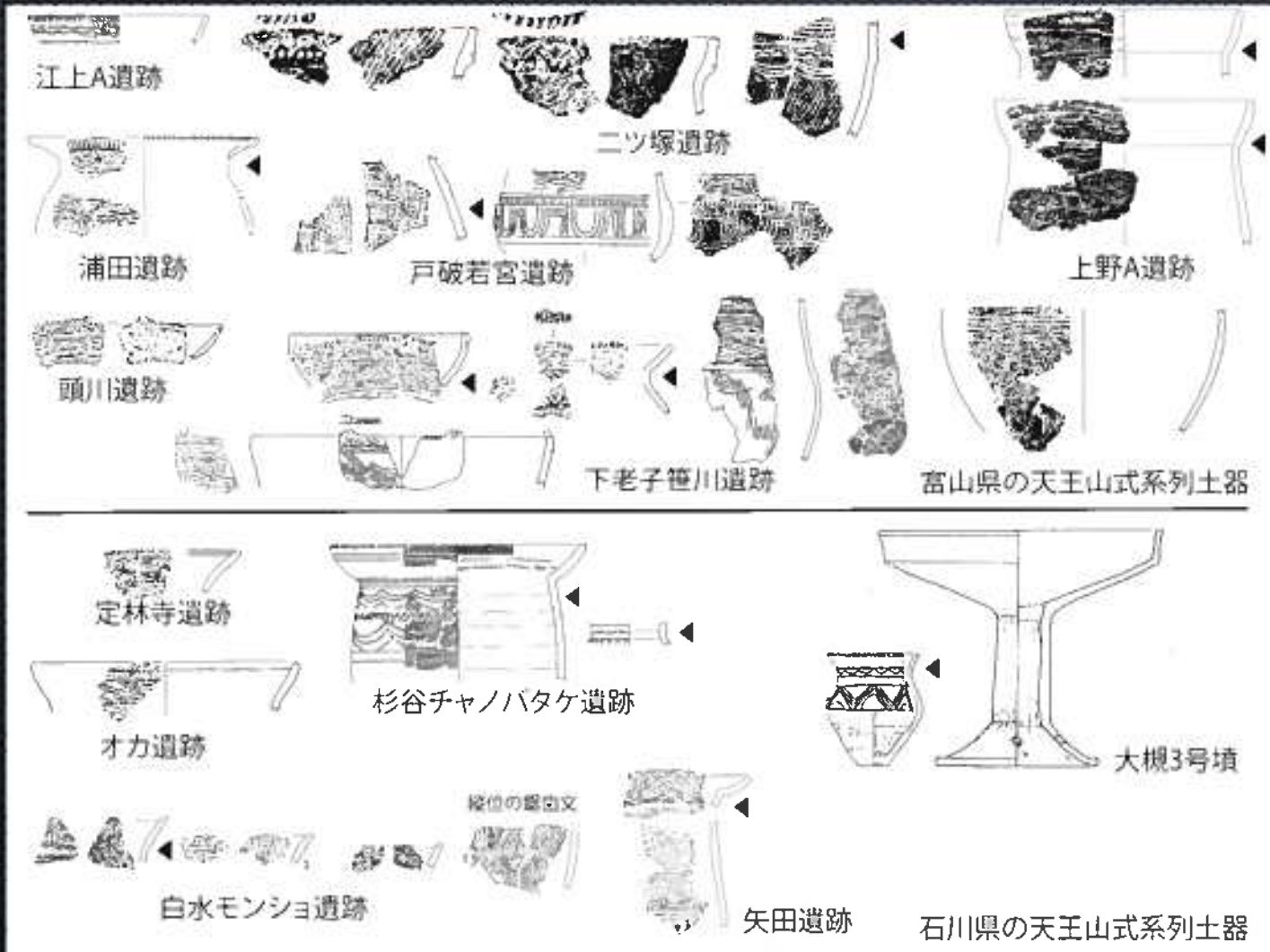
富山県



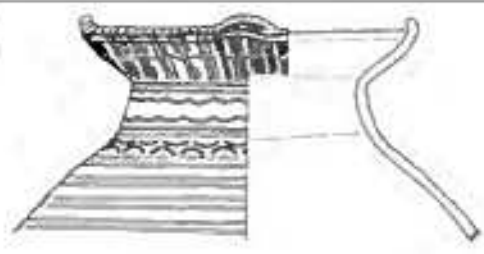
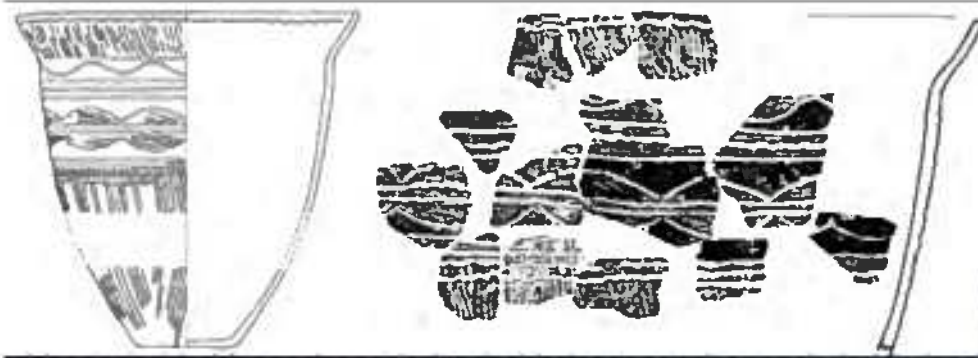
富山県・石川県の天王山式系列土器群



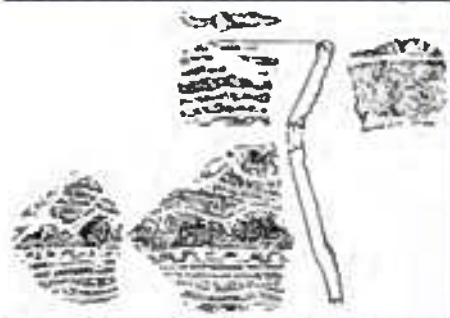
### 5\_3\_口頸部間（口縁部頸部間）小連弧文の系譜







青森市堂沢遺跡



秋田県三種町館の上遺跡



青森県六ヶ所村家ノ前遺跡

口頸部間を無文としない例は  
天王山遺跡天王山式土器成立以前の後期前半にみられる

→分布は、東北北部～新潟・北陸などの日本海側

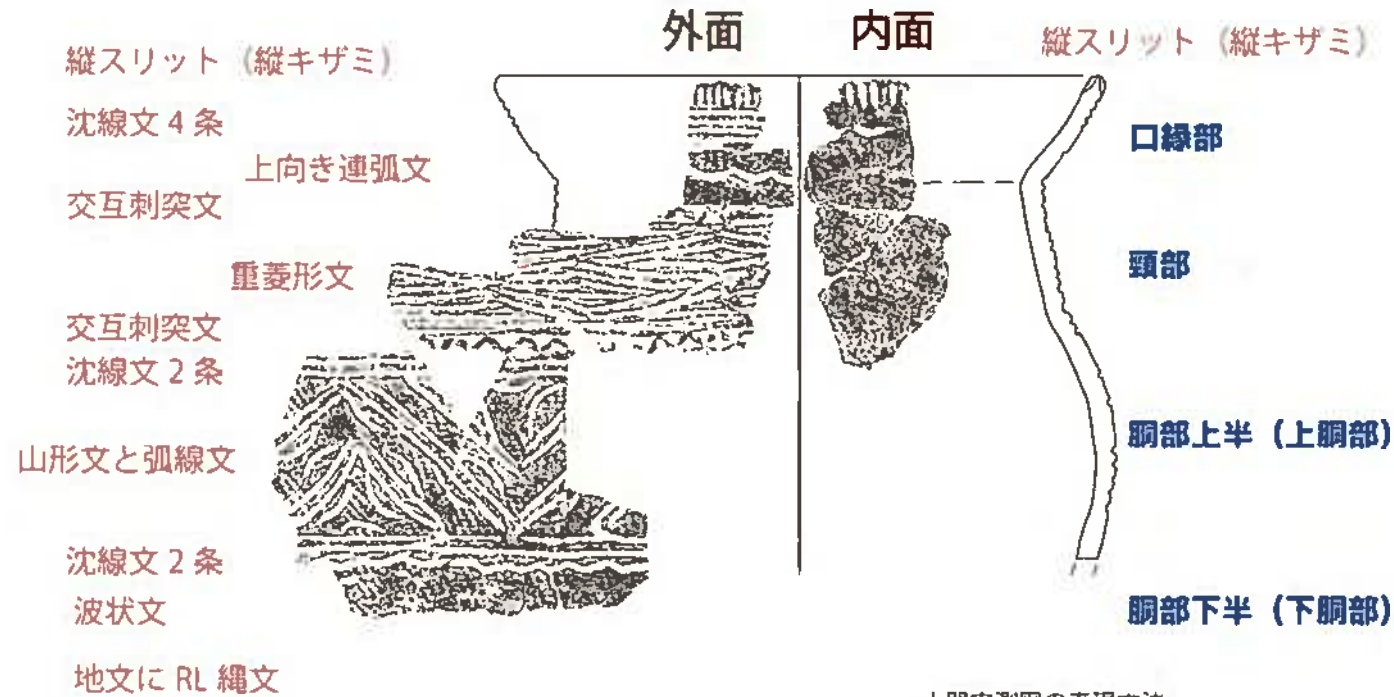


長岡市松ノ脇遺跡

北陸における口頸部間小連弧文の系譜



## 5\_4\_上胴部山形文の系譜



※交互刺突文

**ジグザクの文様が天王山式の特徴**

土器実測図の表現方法  
中心線の左右に線対称に器の形を表現する  
左側 外面の文様  
右側 内面の文様  
右側に土器の断面形(厚さ)を表す

石動遺跡出土のキメラ土器 (頸部重菱形文 上胴部山形文)

石動遺跡 (新潟市)





石動遺跡の口頸部間小連弧文と上胴部山形文の系譜と分布



会津坂下町館ノ内遺跡以外には、日本海沿岸を中心に分布しており日本海側特有の文様と言える



斜線に沿って入れられた  
弧状や鋸歯状文

後期後半  
桜町遺跡



石動遺跡 (新潟市)



24

館ノ内遺跡 (福島県)



25

大槻3号墳 (石川県)



26





館ノ内遺跡



柏崎市西谷遺跡

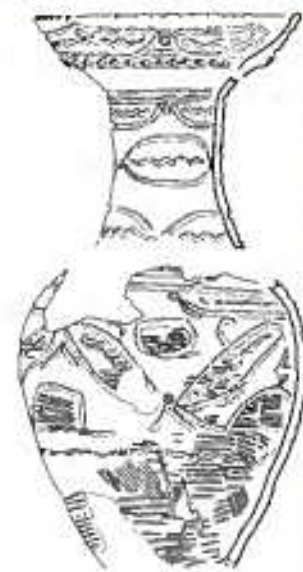


戸破若宮遺跡 (射水市)

蛇足  
少しだけ後期後半の話

+

会津では  
後期前半の後半段階  
天王山遺跡天王山式段階がよくわからない



会津では 後期前半の後半段階～  
白河市天王山遺跡とは違う系譜を考える  
必要があるのかもしれない

天王山遺跡に見られる文様帯区分が不明確  
北陸?からのキメラ土器の影響か?  
後期後半になると、土器・墓制など北陸の  
影響が強くと認められるようになる・・・

後期後半?  
湯川村桜町遺跡



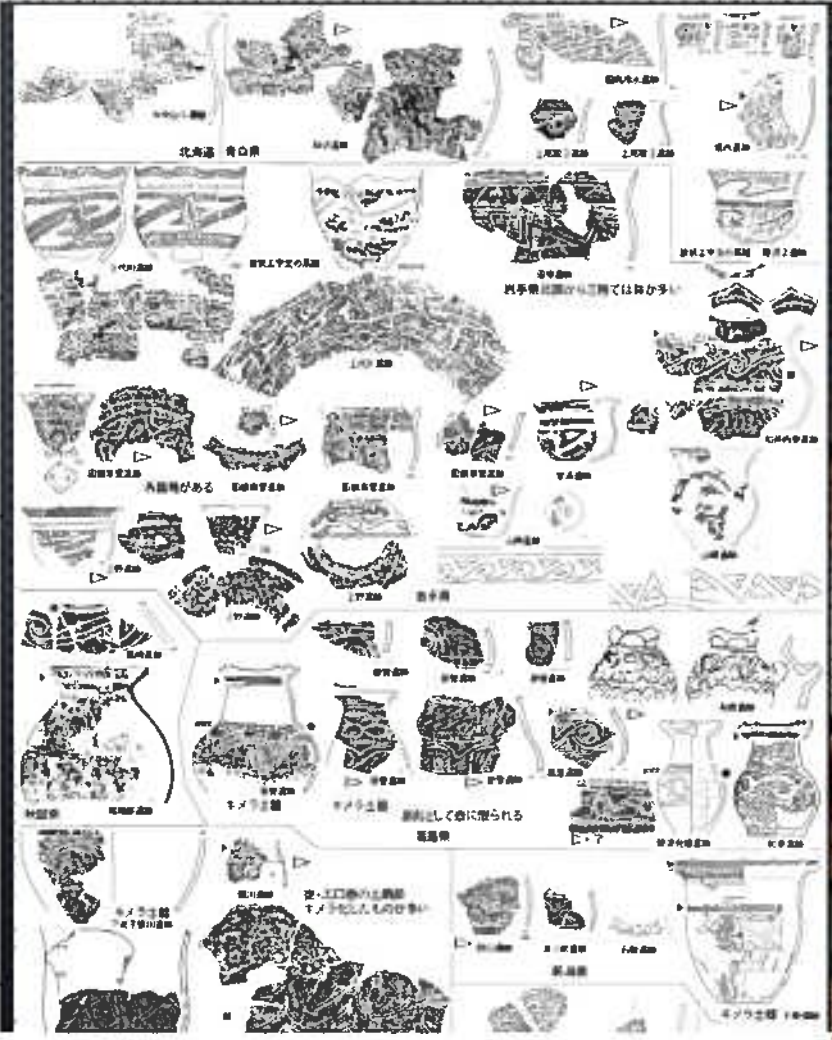
## 6 東北日本に広域に分布する文様

### 6\_1\_S字状連繫文の系譜

- ・ 波状工字文に錨形文の要素が加わって成立した文様・・・石川日出志案
- ・ 青森県八戸市周辺～岩手県宮古市・陸前高田市にかけて古相の例が多い
- ・ 宮古市田鎖車堂前遺跡からは、中期末葉の平行沈線文系土器・重菱形文系土器など各地域の土器が出土しており、S字状連繫文が各地に広がる前段階にも活発な流通を垣間みれる
- ・ 地域と時期によって、鉢形 壺形 甕形と器形に偏りがみられる
- ・ 壺形・甕形土器に入れられる場合には、付随的に入れられた文様のように見受けられる
- ・ S字を挟んで斜め対角線に入る三角形の補助文があるものが古く、新しくなると省略される傾向にある
- ・ S字状連繫文に交互刺突文が入れられる例は少なく、補助文は入らない傾向にある  
⇒補助文のないものは新しい

### 6\_2\_「円台形連結文」の系譜





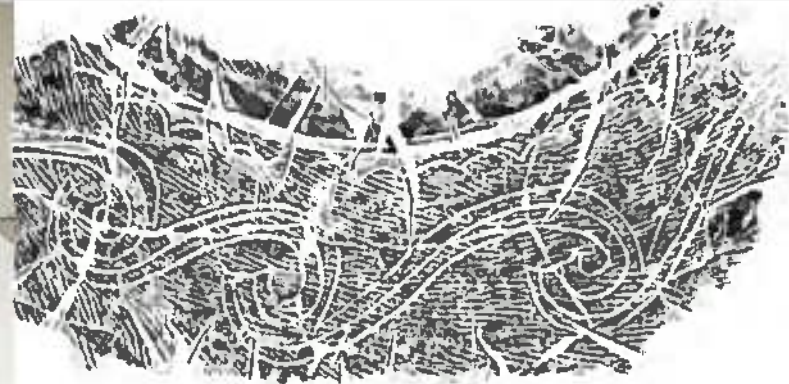
中期後半・終末期からの広域流通を裏付ける遺物  
このような社会背景のもと、S字状連繋文も各地に拡散したと  
考えられる

田鎖車堂前遺跡  
岩手県 宮古市 67

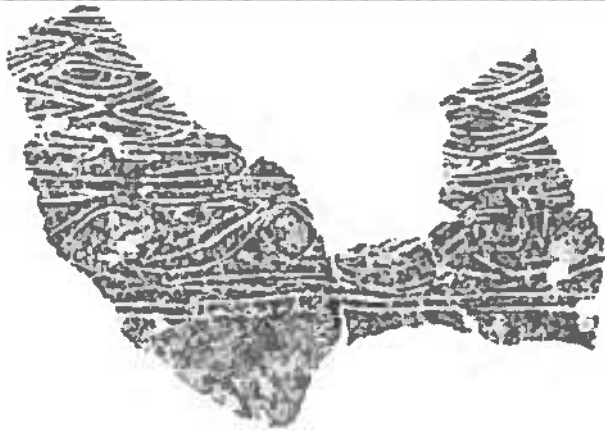




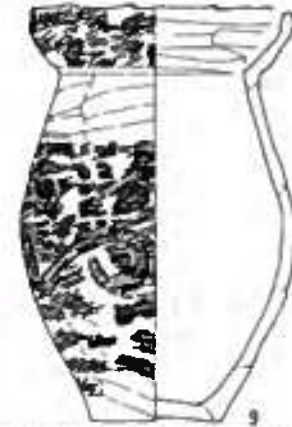
開津台畑遺跡 (福島県)



能登遺跡 (福島県)



吉田高校グラウンド遺跡 (須野市)



長根安坪遺跡 (群馬県)



福島県以南の S字状連繫文は +a の文様なのか？



6\_2 六地山遺跡の円台形連結文の系譜と分布



はけ山遺跡

六地山遺跡の頸部に入れられた文様の系譜を辿ることは難しく、  
今まで、この土器の所属時期は後期弥生と考えられてきた。  
しかし、口縁部の交点対蹠下向連環文は主に前期弥生に用いられる技法なので、  
この文様の系譜も後期弥生にある環図の中から追える必要がある。  
明確ではないが、円形と方形を組み合わせた「円台形連結文」が顕著し、  
双線溝文の影響を受けてきた環図ではないかと考えられている。  
「円台形連結文」は六地山遺跡の土器のように、各地域で独自の文様  
として多用されている。

なお、頸部下側の環図は、後期前半に上腹部に入れられる、環状下向  
連環文が上下逆転したものと考えられる。



神山遺跡



六地山遺跡



東谷遺跡



赤井遺跡



西加野中遺跡

大塚3号墳内の山形文が上下分離し、  
間に交差した円台形連結文を入れる



六地山遺跡 甕形土器



## 六地山遺跡出土の多系統の土器群

### 折衷系 甕

器形は北陸的。  
器面調整のナデ。  
口縁部の縦のスリット  
は例が無い

### 北陸系 甕

### 東北系 甕

縄文施文 口縁部が僅かに内湾する甕形  
平行沈線による 上向連弧文

### 折衷系 甕壺

甕と壺の中間のよう  
な形  
頸部が直立する

### 折衷系 高杯

器形は北陸的  
口縁部のスリット  
下端のキザミは例が無い

### 会津系 壺

上向連弧文  
円形浮文

### 北陸系 壺



- ① 口縁部交点刺突下向連弧文
- RL原体側面押圧による下向連弧文



六地山遺跡



砂山遺跡 (村上市)



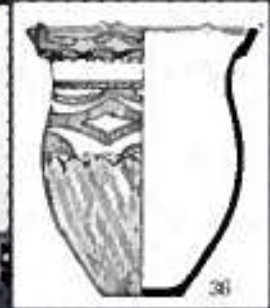
砂山遺跡



砂山遺跡



滝ノ前遺跡



天王山遺跡

- ② 円台形連結文と双頭渦文の変容した文様



(湯澤町) 姥塚遺跡



能登遺跡 (福島県)



能登遺跡 (福島県会津坂下町)

能登遺跡例 (左) は大槻3号墳の山形文を上下に分離させ、その間に変容した円台形連結文を入れる

- ③ 連結上向連弧文
- RL横走、縦走縄文



常盤遺跡



戸破若宮遺跡

本来、一つの文様帯には、一つの構図しか入れない  
②の違う構図を入れることは稀  
上唇部にRL横走縄文を入れるために、敢えて②を  
頸部文様帯に入れたと考えられる



## 7 まとめ

- ・ 後期前半の後半段階に、天王山遺跡が出現し、そこでは天王山式土器が作られる
- ・ 天王山式土器の編年的な位置づけは、天王山遺跡における東関東系土器の共件事例、古津八幡山遺跡における北陸系土器との共件事例から言える 一矛盾はない
- ・ 天王山遺跡天王山式土器は、頸部の一部を無文にし、連弧文に由来する文様を入れ、磨消縄文が多用されるなど、一定の規範に基づいて作られている
- ・ 天王山遺跡で天王山式土器が成立する以前には、中期末の平行沈線文系土器の要素を持った土器が作られるとともに、広域に似かよった文様を持った土器が作られる
- ・ 北陸では東北北部に由来する口頸部小連弧文・上胴部大形山形文と頸部重菱形文
- ・ 上北三八から三陸に由来するS字状連繫文はさらに広域に分布しており、福島県以南では頸部に別系統の文様を持つ土器の上胴部に入れられている
- ・ 六地山遺跡の「円台形連結文」を入れた甕形土器も、前に説明したように、編年的な位置づけは、天王山遺跡天王山式土器以前になる





ご清聴ありがとうございました

